

暑い夏・・・水を考える

雨水東京国際会議 in 墨田

8月1～7日、墨田区役所で、「つなごう世界、救おうアジアの水危機」をテーマに雨水東京国際会議が開かれました。

近頃、日本ではコンクリートジャングルの都会に大雨が降ると下水道の限界を超えてしまい、人命を奪う惨事も起こっています。

荒川区内でも、大雨のたび洪水の被害が出ています。雨水を溜めれば、建物や敷地から雨水が一挙に流れ出るのを防ぎ、都市型洪水の低減につながります。

20年前、国技館の雨水貯留システムに取り組んで以来、墨田区は、雨水利用に熱心で、ビルや住宅及び路地尊など、300近い施設で雨水が、トイレの洗浄水、冷房用水、緑化の散水などに利用されています。荒川区でも普及させたいものです。



墨田区役所前で

やんば 知っていますか

ハツ場ダム・・・首都圏最後の巨大ダム計画



ハツ場ダムは止まるか岩波ブックレット No644 ハツ場ダムを考える会編 参照

群馬県長野原町川原湯温泉が、ダムの底に沈むことが提案されたのは1952年。紆余曲折を経て、反対運動が力尽きたのは1992年。東京の水源地のことなのに、当時、私は知りませんでした。現在、1都5県の地裁でダム建設への税金支出をめぐる係争中です。

今では首都圏は水不足ではない、ダムに土砂がたまってすぐ機能しなくなる、ダム建設より森林整備のほうが保水には役立つなど、ダム不要の論議がてんこ盛りの、『ハツ場ダムは止まるか』（岩波ブックレット）を読んでみてください。東京に住む私達の問題なのですから。

せの喜代の収支報告

		月	期末報酬合計
収入	議員報酬	601,000	3,093,646
	共済掛金	78,000	77,275
	所得税	32,610	234,380
支出	特別区民・都民税	37,141	
	国民健康保険料	50,000	
	国民年金	13,300	
	活動費	150,000	450,000
	選挙立金	30,000	90,000
手取り	209,949	2,241,991	

区議会議員には、議員報酬と区政調査費（会派ごと、一人年192万円＝広報公聴費・資料購入費・通信費・研究研修費など）のほかに、①費用弁償（議会1回出席につき3000円）、②審議会等報酬（1回出席につき6900円など）が支給されます。費用弁償3000円は自転車か徒歩で区役所に通う経費としては高すぎます。審議会参加は議員の仕事のうちで報酬は二重取りになると批判があり、そもそも、審議会には議員でなく、幅広い層の区民の参加が望ましいと思います。

①②については、04年4月から05年3月までに合計173400円が支給されたので、スリランカ・インドの大津波被災者への緊急支援のため、反差別国際運動に40000円とシャプラニール＝市民による海外協力の会に133400円寄付しました。

編集後記

- 9月11日の衆議院選挙、必ず投票所に行って下さい。「どうせ変わらない」ではなくて、今の日本が好きな人も嫌いな人も、政治に関心がある人も無い人も、将来について楽観論者も悲観論者も、とにかく投票にイククキャン！ (K)
- 都心の夏の気温はマニラ並み。このままいくと2030年の東京では夕方6時の温度が43度になるとの予測も。「地域を冷やす工夫」が求められている。(H)